

## 中学2年 道徳科

# 地域の祭りの大切さ C[郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度]

教材「和樹の夏祭り」(出典:「中学道徳2 明日を生きる」日本文教出版)

### 学校教育目標

## 今, 一生懸命

～郷土を愛し, この瞬間を一途に  
努力する生徒の育成～

## 授業の流れ

### 授業のポイント

和樹が「俺らの祭り」という一言が心に引っかかった理由を考える活動を通して、地域の一員として、郷土の伝統や文化への自らの関わりを振り返り、郷土に対する認識を深め、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲を高める。

学校教育目標の実現に向け、生徒に必要と考えられる教科等横断的な視点に立った資質・能力を「見通しを持つ力」「粘り強く行動する力」「思い合う力」と設定している。この授業では、「思い合う力」を高めることができるように、身近な地域行事との関わりという視点から自己を見つめるとともに、友達との意見交流を通して郷土に対する見方や考え方を多面的・多角的に、また肯定的に捉え、人間としての生き方について考えを深めることができるようにしている。

### 導入

導入で「野原神社」や祭りとはどんなものか、どう思っているかなど問うことで、本時の学習への見通し持つ。



### 展開

- ① 中心発問「俺らの祭り」という一言が、和樹の心に引っかかったのはなぜだろう。」を考える活動で、考える手順に基づきながら、見通しを持って意見を考える。
- ② 自分の意見を考えた後、多くの友達の考えを聞いて回り、印象に残った考え(自分にはなかった考え)を記録し、自らの意見を再構築する。



### 終末

学習を通して考えた自分の地域に対する愛着やこれからの関わり方についてまとめ、紹介する。



### 指導項目

C[郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度]  
郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚を持って郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

### 評価について

- ・ 地域の一員としての伝統や文化に対する考え方の違いについて、様々な視点から多面的・多角的に考えているか、グループ活動内の生徒の発言から見取る。
- ・ 地域の一員として、郷土や伝統との関わりについて自分自身の経験と重ね合わせながら考えているか、生徒の発言やワークシートの記述から見取る。

### 目指す生徒の姿

- 地域の一員として、地域のために自分にできることを考え、主体的に関わろうとしている。
- 身近な人たちの考えに耳を傾けながら、自分たちの育つ郷土のよさを再発見しようとしている。